

ドローン人材育成促進

【千葉】世界最大級の規模となる飛行ロボット（ドローン）競技会が2020年初夏に福島県で開かれる。先端ロボティクス財団（東京都中央区、野波健蔵理事長＝千葉大学名誉教授、03・5244・9810）が主催し、競技会を通して若手人材を育成するのが狙い。海外チームの参加も募っており、国際色の強いドローン競技会となりそうだ。

先端ロボティクス財団

野波理事長は競技会 人材はコンペティションを通して人材育成につながる。コンペティションによって生み出されて、人工知能（AI）「てきた」と説明する。のディープラーニング さらに「コンペに参加（深層学習）が登場してエキサイトするた12年の生体認識コンと、思わぬ力やひらめきなどを例に挙げ、きが生まれる。それを「イノベーションを起 引き出したい」と話す。こうした優れた若手 会場は福島県南相馬

来夏 福島で競技会



市の福島ロボットテストフィールド。東日本大震災の被災地で、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトに基づいて整備が進められている。競技が天候に左右されないよう、開催期間として

今後は都市部や離島・山間部の競技会場も検討する（イメージ）

20年6月28日ー7月5日の日程を確保。このうち3、4日間にわたって競技を行う。

競技内容は開催地が被災地であることを踏まえ、大規模地震の発生を想定した災害対策となる。上空探索による救助ルートの策定、要救助者や介助者への救援物資の搬送、倒壊施設内での生存者の状況把握を競う。米アマゾン・ドット・コムや楽天がドローン配送の実用化に取り組む中、

大規模地震を想定 海外チームも募集

今後は都市部や離島・山間部の競技会場も検討する。当初、参加チームは企業の持つモノづくり力、大学の新しいアイデアと両者の得意分野の融合を促すため、産学連携を基本としていた。ただ、同財団が設立されたばかりで準備期間が短かったことから、同県で開く競技会は企業、大学など単独チームの参加も認められる。現在、米国や豪州、インドネシア、韓国、台湾、中国でも参加を募っている。

野波理事長は「コンペを通して世界で活躍できる多くの若手人材を輩出し、ドローンを中心とするロボティクス分野で起業と研究を促進する必要がある」と話す。ドローン産業に国際的に事業展開する複数の企業が協賛する見通し。野波理事長は「周回遅れ」（野波は「コンペを盛り上げ、春や夏の甲子園のように実力のある若手をスカウトする場にして」と強調する。また、ドローンに関する優れた技術が資金不足で日の目を見ない可能性があるため、同財団が資金面で参加チームを支援。1チーム当たり200万ー300万円程度を助成する計画。東京都内で11月29日に開く説明会で詳細を発表する。